

五井福祉ネットワーク

広報紙 第6号 2024/3/1

発行：五井福祉ネットワーク 代表 中島利夫 連絡先080-1066-0650 編集：広報部会

新年度（2024）へ助走開始！

令和5年度 推進委員会開催（下期の活動確認）



令和5年11月26日
於：五井公民館

- 代表挨拶・各部部会長から下期への力強い抱負がありました
- 令和5年上期の事業報告承認、下期の事業活動を確認！
- 消防局出張講演「高齢者のいのちを“住宅火災”から守ろう」と題し講演がありました。大好評となりました（関連記事3面）

活動報告

高齢者部会



- 安心訪問員支援活動を各地区町会代表者にご理解とご協力をお願いしてゆく
- 安心訪問員のフォローアップ研修会を実施（市原地域包括センター青木様・北見様のご協力をいただきました）推進委員中心に18名が受講（令和5年9月19日 五井公民館）
- 介護予防・健康体操を実施（十四軒町会で実施開始）

子ども部会



- 朝のあいさつ運動実施（7月・10月・11月の3回）
- 学童の登下校見守り運動の継続実施
- 市社協ボランティアセンター主催「福祉教育出前講座」応援参加（関連記事2面）

防犯部会



- 市防犯協会五井支部主催、防犯パトロールの参加協力
- 五町会連合主催、上総更級公園防犯パトロールに参加
- 毎月第2月曜日に上総更級公園周辺のパトロール実施、終了後公園の代表、消防団第5分団等の団体と意見、情報共有

広報部会



- 令和5年9月1日 第5号の発行
- 令和6年3月1日 第6号の発行・進行中
- 鉄塔の如く各部連携を密に、情報共有し行事等取材

特別寄稿 こころは青春！



三枝 均
子ども部会 部会長

プロフィール
北海道生まれ。高卒後、千葉県警察官勤務。警察人生のうち、殆ど刑事に従事して定年退職。退職後は、近隣の市役所に数年勤務。現在は、地域のボランティア団体に種々活動している。

生まれ故郷から中学校の同窓会案内が届きました。後期高齢を迎えこれを逃せば以後、機会はないと初めて出席することにしました。昨年、初秋に宗谷本線の旭川発、稚内行き特急に乗り込み、変わり映えのしない風景を眺めながらの2時間半、無人駅の天塩中川駅に到着、降車客は一人でした。

あった筈の商店街もなくなり、すっかり過疎の町になっていました。町唯一の同級生が経営するスナックが会場で、出席者は20名でその半数はお互いに『誰だっけ』でしたが、名乗りを上げるとあの頃の坊主頭やおかっぱの少年少女の面影ありで、お互いに大笑して納得していました。

飲んで、歌って、語って、そしてあの頃のマドンナが今も独り身と聞き、男どもはときめき、やはり今でもマドンナでした。久しぶりに青春時代を彷彿とさせる時を過ごし、すっかりリフレッシュしてもどり、背筋を伸ばして朝の見守り活動に向かいました。

五井福祉ネットワークは

五井小学校区を中心に学童との交流、見守り支援、地域における支え合い 防災・防犯等に、町会・民生委員・児童委員、地域の関係者・関係機関等が連携して福祉活動を行っています。

むかし遊びも
楽しめるよ



手作りのプレゼントもありま〜す



大好きなカレー
ライスをみんな
で食べました

推進委員もスタッフとして大活躍です
小倉・渡部・井上・高澤・守屋・北上・亀山・鶴岡
中島・大野・三枝・石井 （順不同）



編集後記

このたびの能登半島地震により、被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災された方が多くが高齢者であるという。今回、消防局の出張講演でも、住宅火災での死者は約7割が65歳以上の高齢者となっている。火災の多い季節となる「いのちを守る10のポイント」をあらためて確認してゆきたい。被災された方々の一日も早い復興をお祈り申し上げます。（石）

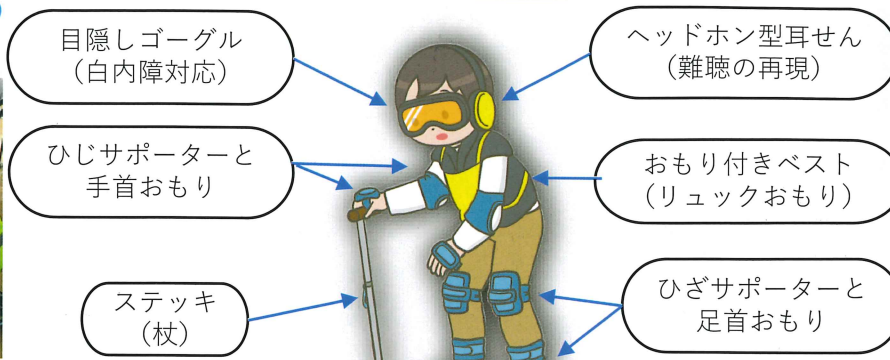
福祉体験授業

令和5年12月21日 五井小学校・五年生 131名受講

☆高齢者の心身の辛さや不安を、自分のこととして考えてもらう絶好の機会になりました☆

高齢者擬似体験

おりん装着中
カラダが重い～



目隠しゴーグル
(白内障対応)

ヘッドホン型耳せん
(難聴の再現)


ひじサポーターと
手首おりん

おりん付きベスト
(リュックおりん)

ステッキ
(杖)

ひざサポーターと
足首おりん

前かがみ姿勢ベルト
腰の曲がった状態を体験



疑似体験装具（イラスト参照）を装着して、日常生活動作を擬似的に体験することにより、加齢による身体的な変化（筋力、視力、聴力などの低下）を知り、高齢者の気持ちや介護方法、高齢者とのコミュニケーションの取り方を体験的に学ぶことができます。
（※イラストと実際では一部異なる箇所もあります） 「介護の広場」HP参照

階段下りるとき
恐～い！



アイマスク体験

2人一組で目隠し、白杖を持ち、介添人とカーブを曲がったり階段を上がり下りします。
介添人はそっと支えます。ゆっくり進みましょう。

見えないよ～
大変！



バランス取る
のが難しいね



車椅子体験

介添者は、少しの段差でも注意してゆっくりと車椅子を持ち上げます。段差から車椅子を、上り下りさせるのがむずかしいです。

持ち上げるとき
チカラが必要



目標球（白）の距離感
が難しい



ボッチャ体験

ヨーロッパ生まれパラリンピックの正式種目です。運動能力に障がいのある競技者向けに考案されたが、現在は年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、すべての人が競い合えるスポーツです。
ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに赤、青のそれぞれの6球ずつボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

投げ方は自由！



市原市バリアフリーワーキング市民グループ・スタッフ及び山九（株）メンバー、五井福祉ネットワーク推進委員等が参加しました。



高齢者のいのちを 住宅火災から守りたい！



全国の住宅火災における死者のうち、約7割が65歳以上の高齢者となっています。
高齢化の進展とともに、高齢者の住宅火災における死者の増加が懸念されます。

市原市の状況

1 火災件数は前年に比べて16件の増加

令和4年に発生した火災件数は108件。前年（92件）に比べ16件の増加となりました。これは、おおよそ3日に1件の割合で発生したことになります。
火災種別ごとに区分しますと、建物火災が60件（前年40件）で全体で56%、その他の火災が41件（前年38件）で38%、車両火災が7件（前年8件）で6%となりました。

2 火災による死者はいずれも65歳以上の高齢者

火災により死者は、5名となっており、前年3名から2名の増加となりました。
亡くなられた5名の方は、いずれも65歳以上の高齢者となります。
死者の発生した火災を種別で区分すると、建物火災4名、車両火災1名となります。
火災による負傷者は、12名となっており、前年6名から6名の増加となりました。
負傷された方のうち、半数の6名は65歳以上の高齢者となっています。

出張講演 市原市消防局 火災予防課
田中様 根本様

いのちを守る10のポイント

火災を予防するには、一人ひとりの防火に対する意識が重要です。
火災からいのちを守るための10のポイント（4つの習慣・6つの対策）についてお話をさせていただきます。

4つの習慣

- 1 寝たばこを絶対にしない
- 2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない
- 3 コンロを使うときは火のそばを離れない
- 4 コンセントはホコリを清掃し不要なプラグを抜く



6つの対策



6つの対策

- 1 ストープやコンロ等は安全装置の付いた機器を使用する
- 2 住宅用火災警報器の点検と交換する
- 3 カーテンや寝具等は防災物品を選ぶ
- 4 消火器を設置し、使い方を確認する
- 5 避難経路と避難方法を確認する
- 6 地域ぐるみの防火対策をする

4つの習慣

